令和８年４月 15 日
建設課都市計画係作成

立山町立地適正化計画フォローアップ委員会（第１回）
議事録

【議事録　概要ポイント】

（１）五百石駅周辺再整備の現時点の状況について、説明し、理解を得た。

（２）今後整備されていく各施設が地元住民だけでなく幅広い意味での来町者の利用も期待するものであることを踏まえると、良い整備とするには、地元住民は勿論のこと、来町者の意向・需要を十分に踏まえたうえで、来町者が五百石駅周辺を目的地にしようとするに足るコンテンツづくり（イベント等を含む）に努める必要性を確認した。

（３）五百石駅周辺再整備について、住民一人一人が情報をつかみ、まちづくりを考え、意見を寄せ合うことができる機会として、幅広い住民や事業者が参加可能な座談会等の機会を継続的に設けていく必要性を確認した。また、そのような機会をきっかけに、住民や事業者が主体的かつ協働でまちづくりに取り組む体制を育てていくことが望ましいことを確認した。

【開催日時・場所】

日時　令和 8 年 3 月 6 日（金）15 時 00 分～17 時 00 分

場所　五百石公民館 2 階ホール

【出席者】

委員（50 音順）

氏名	所属・役職
青木　正博	(一社)立山町観光協会　事務局長
石原　るり子	五百石公民館　館長
大田　幹夫	立山町区長会　前会長
大西　宏治	富山大学人文学部　教授
川尻　優一	立山町商業協同組合　理事長
久田　裕里佳	立山舟橋商工会青年部　副部長
山林　哲也	立山中央小学校愛育会　会長

※住田直磯　富山地方鉄道株式会社鉄軌道部営業課長代理

　高野力郎　立山中央小学校校長　　は都合により欠席。

事務局

所属	役職	氏名
建設課	課長	野田　昌志
建設課都市計画係	課長補佐	長岡　和男
建設課都市計画係	主任	髙木　晃宏
建設課都市計画係	主任	山田　南美

事務局以外の役場出席者

所属	役職	氏名
総務課営繕係	課長補佐	中川　大輔
企画政策課まちづくり係	主任	浦田　亮佑
商工観光課	課長	山田　真樹子

【議事】

（１）立山町立地適正化計画の主旨（確認）【10 分程度】
（２）五百石駅周辺の現状について確認　-住民アンケート調査と通行量調査の結果から-　【20 分程度】
（３）取組の方向性と進捗状況について確認　【30 分程度】
（４）意見交換（テーマ：町中心部のにぎわい創出、住民のまちづくりの「自分事」化について）【40 分程度】

【開会】

（進行役（長岡課長補佐））

出席予定者全員がお揃いですので、会議を始めます。本委員会は、今年新しく設置した委員会で、本日が初めての会議となりますので、はじめに本委員会の趣旨について改めて説明を兼ねて、事務局である建設課長からご挨拶いたします。

（野田建設課長）

皆さんお疲れ様です。本日は、お忙しい中、貴重な時間いただきまして、ありがとうございます。

このフォローアップ委員会の前段で、町では、昨年 3 月に、新たなまちづくりの指針として、立山町、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を定めました。これに基づき、町では、五百石駅周辺の整備をはじめとしたまちづくり、の取り組みをスタートさせた次第です。

本委員会につきましては、このようなまちづくりを進めるに際し、行政や都市

計画の専門家だけではなく、日々「町を良くしたい、良くしていこう」という思いで、まさに五百石駅周辺を拠点に多様な分野でご活躍の皆様方からも、まちづくりの取組状況に対してご意見をいただく場が欲しいという形で、設けさせていただきました。

立地適正化計画の詳しい内容につきましては、後程紹介をさせていただきますが、まちづくりはハード面の整備だけではなく、人の移動を支える公共交通、にぎわいの材料であるお祭りやイベント、安全な安心の基盤となる防災なども関わり、それぞれが活かしあって良い町になります。それぞれ計画作成の過程では、関係課や策定委員から意見をもらいながら作ったわけですが、今後のフォローアップについても、各委員からも、自由にご意見やご要望等、忌憚なくご意見いただければというふうに思います。

皆様方のお力を、まちづくりにお貸しいただければというふうに考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いします。

【出席者紹介】

（進行役（長岡課長補佐））

議事に入る前に、委員の皆様のご紹介から始めていきたいと思います。委員の皆様のご役職とお名前を私からご紹介させていただきますので、皆様からは続いて、五百石駅周辺と、ご自身のお仕事や生活での関わりについて簡単にお話していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

（青木正博委員　（一社）立山町観光協会　事務局長）

私は今回、観光協会の事務局として参加させていただきます。いかに、住民が住みよいまちづくりをするかということが、まちづくりの主な点だと思いますが、観光協会という立場では、外部から町に訪れたくなるにはどういった取り組みが必要なのかということを、皆さんのお話を伺い一緒に考えたいと思います。

（石原るり子委員　五百石公民館長）

計画の策定から関わらせていただいており、まちづくりについては専門性が無く、自分で大丈夫かしら、と思いながらも、少しでもお役に立てればと思い意見を言わせていただいております。交流が多く、いろんな人にとって居場所があるとちゃんと感じられる町にしていきたいと思っています。

（太田幹夫委員　元立山町区長会長）

立山郵便局前の小さな町内の区長をやっております。昨年は一応区長会長と

いうことで、宛て職的に、立山町地域公共交通活性化協議会や、観光・暮らし情報館の設計者の選考だとか、いろいろとにかかわらせていただきました。また、五百石の天満宮の総代もやっておりまして、何かしらでやはり五百石の中心街にずっと携わっているという立場でして、いろいろ思うことはありますが、やっぱり寂しくなっているなと思います。秋祭りでお家を回ると、実際 3 軒に 1 軒ぐらいは空き家があります。こういった意見交換の機会を活かして、いい方向になっていただければというふうに思っております。

（大西宏治委員　富山大学人文学部教授）

立山町都市計画マスタープラン、立地適正化計画の策定から関わらせていただいています。立山町とは計画策定以前から長い縁がありまして、インターカレッジコンペティションの機会に学生と一緒に五百石駅周辺も歩いて、この商店街の中がすごい状態だなと思い、どうしていったら良いか考える機会も長年頂いてきました。それから、富山地方鉄道の立山線も、なかなかどうやって利用してもらえばいいんだろうということを学生と考え、町に提案する機会も頂いてきました。その時に提案した、動く美術館列車、アートレインがいまだ続いております。この提案をした学生たちは卒業しましたけれど、今でも話題にすることがあります。昨年、計画の策定に関わらせていただいた時に改めて感じたところですけれども、町がこういう計画を立てたら、次は、これを誰がやるかということを考える必要があって、別に町だけがやるんじゃなくて、最終的には住民が自分のこととして、皆が動けるかどうかということが大事です。今日の会議は、こう言ったことがしっかりなされているか、見守り、促す役割の委員会だと思っております。

（川尻優一委員　立山町商業協働組合理事長）

商協は、まず元気交流ステーションの指定管理者を務めている立場です。その立場からすると、イベントなどの活動の中心地の管理者として、賑わいの一端を担う立場であると考えております。

普段の商業協同組合の事業自体は、あまりそのこととは関係なく、町の企業にとってのステーション。企業の成長などをサポートしております。住居は町の中心部から少し離れますけど、今ある元気交流ステーションや、より良い施設になるように、委員としての役目を果たせればと思います。

（久田裕里佳委員　立山舟橋商工会青年部副部長）

私自身は昨年度から商工会青年部副部長を務めています。青年部の卒業まであと１年を残すところですが、「かけがえのない地域を、かけがえのない仲間た

ちと共に」をキャッチフレーズに、町のイベント等での出店やイベント等を主催しています。
　個人的には、立山町の保育士として町の保育園、子育て支援センターなどで働いてきた経験があり、今は個人事業主の立場でベビーマッサージなどを通した親子の居場所づくりを手掛けています。今は、親として、青年部員として、そして個人事業主としての自分の事業をかけ合わせて、自分にできることを考えている最中です。自宅も五百石地区の曙町にあり、近所の高齢の方がどんどん買い物に行けなくなって、コンビニで買ったお弁当を持って家に向かって歩いている様子を目にして、なんだかすごく心苦しいと思っていました。ですので、こういった町の課題の解決に向かっていく委員会の一員に加えていただき、嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。

（山林哲也委員　立山中央小学校ＰＴＡ会長）
　今年度、立山中央小学校のＰＴＡ会長を務めています。立山中央小学校は町で560 名弱の生徒が通う、町で一番大きな小学校です。そういった子たちが登下校したり放課後過ごしたりすることもありますので、子どもたちの安心の生活を作っていくために役に立ちたいと思います
　自分は前職時代に、役場の方々やインターカレッジコンペティションなどで富山大学の学生ともお会いさせてもらい、町中心部の活性にも少し関わっていました。また、自分自身がこの五百石地区で約 40 年住んできて、町中心部の寂しさなどの課題も感じています。やはり自分たち 30 代 40 代が動いていかなければという思いがありますので、この委員会メンバーに入れていただいて、町を良くするために動ければなと思います。

（進行役（長岡課長補佐））
　住田直磯委員は、富山地方鉄道株式会社鉄軌道部営業広報課長代理で、本日は都合により欠席です。今週末の富山地鉄ワンコインで乗り放題というイベントの、そちらの方の準備の関係ということです。
　高野力郎委員は、立山中央小学校の校長で、本日は急遽、所用により欠席ということでご連絡いただいております。
　続いて、役場の出席者は自己紹介をお願いします。

（総務課営繕係　中川課長補佐）
（企画政策課まちづくり係　浦田主任）
（商工観光課　山田課長）
（建設課都市計画係　髙木主任）

（建設課都市計画係　山田主任）
（建設課都市計画係　長岡課長補佐）
　各々、まちづくりに関わる担当の事業内容に触れつつ自己紹介

【委員長選出】

（進行役（長岡課長補佐））
　それでは委員長の方を選出に移りたいと思います。委員長につきましては、本委員会設置要綱の規定により、委員の互選により選出することになっております。委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。

（青木委員）
　専門的な知識をお持ちで立山町の状況のご理解も深い、富山大学の大西先生が適任ではないかと思いますが、皆様いかがでしょうか。

（進行役（長岡課長補佐））
　ありがとうございます。それでは大西様を委員長に選出することについて、賛成の方は拍手で承認ください。

〈一同、拍手〉

（進行役（長岡課長補佐））
　拍手でご承認いただきました。それでは、大西先生、委員長席にご移動いただき、大西委員長から一言ご挨拶をお願いいたします。以降の進行は大西委員長にお願いします。

（大西委員長）
　委員長を拝命しました大西です。立地適正化計画は、計画策定の段階でも、大分、多岐にわたる分野について委員の皆様にご意見を入れていただき、実際に町の様々な課題に対して、町民がどんなまなざしで見ているのかというのを一応わかった上で、フォローアップの議論を進められるかなと思います。
　今の委員の皆様の自己紹介でも、皆様大分、町が良くなってほしいという思いをお持ちなんだなと思いましたが、今日は第一回ということですので、ご意見を自由にご発言いただいて、それを共有、確認するというふうに進めます。

さて、このような町が作る計画は、仏を作る時にたとえられますが、モノ、いわゆるガワだけできても意味がない。魂が入って初めて、仏になります。このフォローアップ委員会の場が、計画に魂を入れていく作業をする場になるようなイメージでいられれば良いと思います。本日はよろしくお願いします。

【議事１　立山町立地適正化計画の主旨（確認）】

（大西委員長）
まずは、立地適正化計画の中身のおさらいとなります。事務局から説明をお願いします。

（説明者　山田主任）
スライドに沿って計画のポイントを説明

（大西委員長）
質問や確認したい事項があれば挙手をお願いします。

〈質疑なし〉

【議事２　五百石駅周辺の現状確認-住民アンケート調査と通行量調査の結果から-】

（大西委員長）
質問が無いようですので、続いて、五百石駅周辺の現状確認について、事務局から説明をお願いします。

（説明者　山田主任）
資料①のポイントを説明

（大西委員長）
質問や確認したい事項があれば挙手をお願いします。特に、アンケート結果については、皆様の感覚と一致しているでしょうか。なかなか細部の傾向にも触れる内容でしたので、咀嚼にやや時間が必要な方もいるかもしれないと思いますが、気になる点などあればご発言ください。

〈質疑なし〉

（大西委員長）
　それでは、これを踏まえての意見などは、この後の意見交換の時間でも伺いたいと思います。議事を進めます。

【議事３　取組の方向性と進捗状況について確認】

（大西委員長）
　続いて、取組の方向性と進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

（説明者　山田主任）
　資料②のポイントを説明

（大西委員長）
　それでは、質問や確認、意見があれば挙手をお願いします。

（太田委員）
　観光・暮らし情報館の整備、それからホテルなどの民営の施設の件は、具体的な整備のスケジュール感とか、実現の可能性は、どのような状況でしょうか。

（事務局回答（長岡課長補佐））
　観光・暮らし情報館については、現在、整備予定地の既存建物の解体が始まったところで、実施設計も進めております。今春から工事の方も始まる予定で、予定どおり進めば令和９年度の春には出来上がる見込みです。
　ホテルなど民営施設については、先ほども説明したとおり、多くの民間事業者様と意見交換を重ねながら、誘致の方向性や可能性について検討を重ねている最中で、まだ具体的な場所とかスケジュールは何も決まっていない状況です。先ほど申し上げた通り、何か一つポッと施設が建ったからと言って町中心部が再生するという単純なものではないし、町中心部の再生を進出してくる一民間事業者にまるっと任せるようなスタンスでは厳しいということを、民間事業者とのヒアリングを通して、我々も改めて認識したところです。
　まずは町が整備する観光・暮らし情報館で、周辺の印象も少し変わると思いますし、民間事業者もこれから、この地に入ってこられるなら、より魅力を高めるために、景観などの観点でも連携するなど、工夫が必要だと思います。こういったことも、地元に住む皆様も巻き込んで一緒に考えていくような仕組みを整えるところから、やっていかなければならないと今考えているところです。

（太田委員）
　旧藤木病院の横を流れている水路のところに、道路が予定されていると思いますが、この水路はどうなりますか。暗渠になりますか。

（事務局回答（長岡課長補佐））
　この道路は町道として整備します。町道の幅員は基本６ｍであり、この道路幅の中に、暗渠の水路が入ると考えていただければと思います。この道路は現在設計段階で、今月中には粗々のものが出来てきます。道路を新しく作るには、警察との協議も必要ですが、既に、６区−１の区長さんからは詳しく、この水路のどの部分が溢れやすいなど、お話を聞いており、また地元の皆様にもご相談させていただく機会も持ちたいと考えています。

（太田委員）
　私は五百石の昔の様子を思い起こすと、小学生や中学生がもっと行き交っていたように思います。その様子を大人たちは賑やかだなと見守っていました。最近はそれが無くなったと思います。地元の大人が出歩くのは、仕事が終わった夜ですから、日中に大人が訪れる前提の場所を作っても、結局、活気があるようには見えないと思います。常時、誰かが行き交うように見えるには、平日の放課後に、子どもが出歩こうと思うような場所を作る必要があるのではないかということです。
　ですから、観光・暮らし情報館に整備するのか、また別に整備されるのでも良いと思うんですが、地元の子どもたちがお小遣いで買えるような、駄菓子とかソフトクリームとか、そんなものを売る店が、商店街とか五百石駅前近くにちょこちょこあると良いだろうなと思います。昔は、個人の商店がもっとあって、そういうところで食べたり遊んだりしましたが。

（久田委員）
　今の太田さんの、駄菓子屋や子どもが出歩こうと思うような場所があればという意見、そのご意見には同意する一方で、今まで自分の事業として子どもたちや、子ども連れのお母さんが来られるような場所づくりに取り組んできた者としては、理想論でとどまるような感触があります。
　具体的には駄菓子など、子どもがお小遣いで買えるようなものを売ろうと思うと、まず採算が取れません。民間の事業者でそれをやろうとする人は見込めないと思います。そして、若くて何かやってみようと思う人がいたとして、五百石地区で新しい活動を始めるのに使える場所がなかなか見つかりません。公共の

施設を借りようとすると、営利目的なら貸せないと言われたりか、赤字にならざるを得ないと事業者が感じてしまうような利用料をとると言われたりします。
　そういうことがあって、私も諦めたことがあるし、せっかく地元のためにやってみようと思うのに、諦めてしまっている人がいるのが実態だと思います。

（大西委員長）
　今、久田委員から、とても示唆に富んだご意見をいただきました。この点について、事務局からコメントなどはありますか。

（事務局から補足（山田主任））
　久田さんが言ってくださったような具体的な問題点、非常に大事に受け止めなければならないと思っています。既に、実際に地域の活性化のために何か取り組まれている方、取り組んでみようと思っている方がいらっしゃるのは大変ありがたいことです。そういう方々が障壁だと感じていることを整理して、一つ一つ解消していくために、関係者で問題点を共有し、整理するという基本的なことをちゃんとやっていきたいと思います。
　もちろん予算と時間をかけて、外部の民間事業者の力を借りなければ解決できない性質の大きな課題もあるのでしょうが、解決する立場にある人がその課題を理解できていない、関係者が上手く噛み合っていないがために積み重なっている小さな障壁も多くあるように思います。
　そうした小さな課題解決のためには、まずは地元の方たち自身が、具体的にどんな「住み良さ」や「にぎわい」を求めるのか、どんな課題があるのか、そのために自分たちができることは何か、外部の力を借りたい部分はどこかについて、話し合い、知恵を出し合い、考える機会を多く踏むことが大事と思っています。こういう過程自体が大事ですから、役場が全て指図するというような形で進めることはあまり望ましくないと思いますが、最初の「話し合いませんか」という声掛けや、他地域の事例を参考にしながら提案することは、役場ができることだと思いますし、地元の皆様から生まれるアイディアや取組を、何か小さなことでもやってみること、それを継続させること、アイディアを実現させるためのサポートも、ぜひしたいと思います。
　また、整備したいと考えている施設の一つである地域交流センターは、単に「公民館」の名前が今っぽく変わるというだけではなく、今まで社会教育とは関係ないという理由で制限されていたような活動もできる施設になるということで、より自由度高い活動を歓迎できる拠点として整備することを検討していることを、補足しておきます。

【議事４　意見交換（町中心部の賑わい創出、まちづくりの自分事化について）】

（大西委員長）
　事務局から、「具体的なやり方は分からないが、誰か他所の人が上手いことやってくれる」という発想にとどまるのではなく、地元の住民や事業者自身で発想から課題の解決方法までを話し合い、考えていくような取組が大事ではないか、という提案がありました。議事４とも関係しますので、議事４に移ります。この意見について、皆様どう思われますか。どういう観点からでも良いので、ご発言いただければと思います。

〈しばし沈黙〉

（久田委員）
　今、皆で考えるという事務局の発言があったことに関して、商工会青年部のことを紹介させてください。商工会青年部では、「かけがえのない地域を、かけがえのない仲間たちと共に」という気持ちを大事に、立山まつりなどのイベントでの出店や、ドンドンまつりの主催などをしています。そうしたイベントにはたくさんの方が参加していただき、参加した方たちからは、「イベントを続けてほしい」「もっとこうしたら良いイベントになるんじゃないか」という感想はくださるけど、そのためにはもっと運営側の手や潤沢な予算が必要という状況に直面しています。本当に仲間集めに苦慮していて、期待に応えたいけどできないこともあって、できないことに対して批判を貰うと、悔しさや悲しさを感じます。今の既存の組織の形にこだわっていては、限界があるなと感じていますし、加入の要件もある青年部には、自分自身、所属できるのは後１年ほどになっていますので、いま、今後の自身の身の振り方を考えています。
　１人ではなかなか、やる気がいくらあっても外から見える形にするのは難しいので、私はどうやって地域のために活動していこうかなと悩んでいます。私以外にも、そう感じている人や事業者は他にもいるのかなと思います。だから、個々に仕事していて「地域のために」と思ってやりたいことがある方たちが、協力していける場があれば良いと思います。

（石原委員）
　昔と違って、若い人たち、皆さん時間的な余裕がない状況だと思うので、その中でやっていくことの難しさはあると思います。

（青木委員）

私は、賑わい創出の観点で、観光協会の事務局の立場として、特に町の魅力を外の人に届ける事業者の立場だと認識していますが、外の人の視点に立った検討ももっと必要ではないかと思いました。

アンケートは地元住民の方を中心に聞いたもので、町外から町を訪れた人が利用できる場所が少ないと住民は思っているということが、資料や説明から分かりました。そしてそれを踏まえて、取組の方向性として、五百石駅周辺地元の住民ではない、外からやってくる方たちの受け入れの場所を整備していく方針だと説明がされました。

ただ、観光・暮らし情報館の整備にはもう着手しており、ホテルなどの民間施設の誘致も検討していく考えだということですが、施設ができたからと言って、立山駅や富山駅から途中下車してまで来るのかというと、そうではないと思います。そのあたりの検討状況が、資料や説明からは見えてきませんでした。現在、観光目的で町に来ている方の様子を見ると、町中心部に行こうと思っている人は非常に少なく、目的地になっていませんので、そういう人たちの需要とマッチしたものになるのか、なっているのか非常に気にかかります。

（太田委員）

賑わいを作ろうとする時に、元々観光地ではない五百石地区を観光地化しようというのは無理があると思います。観光・暮らし情報館は作ると言っても、それだけで解決するわけじゃなく、ほかの施設を巡りやすい交通機関やイベントと、本気で結びつけようとしないと、上手くいかないと思います。

ビジネス客を目的にホテルを呼ぶにも、もっとある程度の数の飲食店がないと、そこを宿泊先として選ぶ人は少ないと思うので、現状はなかなか来てくれないと思います。そうすると、数ではなく、この地域特有の話題性を持つ店が１、２件あれば良いのでは。常設の店じゃなくても、先日富山市で開催されたラーメンフェスだったり、立山町でも開催されたアルコールのイベントだったりのようなイベントも、「そんなイベントがあるから、行ってみよう」となることが考えられるのではないかと思います。その際、富山駅前のような立地条件ではないですから、ある程度町を挙げて、イベントなどをやらない限りは実現が難しいのではないかと思います。

（事務局からの補足説明（長岡課長補佐））

今ほど青木委員、太田委員から出たご意見に関連して、今年度、ホテル運営を中心とした民間事業者とのヒアリングした経過と結果を具体的にご報告します。ホテルの誘致については、実は数年前から、宿泊施設誘致可能性調査などを行ってきた中で、町の企業への出張などのビジネス目的で来町する人々の潜在的な

需要が一定数ありそうだということが分かってきておりました。そのうえで、町としてはホテル整備ができれば、飲食店などがもう少し復活してきて、町中心部の賑わいにつながるのではないかという考えから、ホテル運営事業者が進出を前向きに検討できる条件を整理する参考にするために、ヒアリングを実施したものです。

ヒアリングに応じてくれた民間事業者の感覚は、「泊まれる場所ができたというだけでは経営が成り立つだけの集客は見込みづらく、五百石駅周辺を訪れたくなるような環境づくりから、官民が一体となって進める必要がある。そのために、町には、補助金や土地購入費が不要となるといったような経済的な支援策にとどまらず、官民一体で、地元事業者とも力を合わせてまちづくりを進めるような体制をつくってほしい」というものでした。

こうした意見の背景には、ヒアリングに応じてくれたようなビジネス・観光向けホテルを運営する大手事業者にとって望ましい事業規模は、当町が把握している潜在的なビジネス需要規模よりも大きいという実情があります。その差を埋めようとした時に、五百石駅周辺の訪問先としての魅力づくりが必要で、それを全て、その進出企業だけで、地元の事業者や行政との連携はあてにせずやってくれ、ということを言うようなスタンスでは、外部の事業者にとっては、検討に消極的にならざるを得ないという現状があるということです。

ヒアリングに協力いただいた民間事業者からも「もう少し具体的にビジネスや観光の両面での五百石駅周辺の宿泊需要を把握したい」という意見があります。「それを踏まえて、立山駅や富山駅の周辺とは差別化され、潜在的な需要を満たせるような宿泊施設を検討したい」という声も聴かれますので、役場からそれに応える形で、ビジネス需要の状況や、県の観光アンケート結果などを提供するなどしていたところですが、事業性を検討したい民間事業者にとっては、まだ十分な情報量ではないと認識しています。来町者や外部の事業者の意見も取り入れ、今後も検討を進めたいと考えております。

（山林委員）

話を地元住民の視点に戻してしまいますが、外から来る人向けの施設や取組と、地元住民向けの施設や取組との調和がとても難しいなと感じました。

私は小学校の PTA 会長という立場で、子育て世代でもあるので、どうしても地元の、子どもたちのための要素があるかという視点が気になります。公園や、建物内でも無料で過ごせるスペースに子どもは集まると思います。放課後や休日に使える、気軽に過ごせるような施設でゲームをして過ごしたり、ちょっとお菓子などを持ち寄って食べたりすることができる場所が、地元の子どもたちにとっては良いと思います。そういうスペースが広ければのびのび遊べるし、悪天

候や暑い日のことを考えると、細かい話になりますが、無料の Wi-Fi や空調などが、実際に使いやすい施設かという時に重要なポイントになります。

（大西委員長）
　それでは、本日は何かを審議したり決定したりする性格の場ではなく、大分主要な意見も出尽くしたかと思いますので、最後に委員の皆様から一言ずつ、今日の話を踏まえての感想や意見をお聞きして、本日の会議を終わりたいと思います。

（山林委員）
　本日、事業者の立場の皆さんの話を今日聞いて、色々な立場の視点での課題があるのだなと感じました。
　私自身は地域の中で事業を営む者ではありませんが、やはり我々子育て世代が、地域を支える真ん中の位置にいて、地域のためにどんなことができるのか。今後どうしていきたいのかを、深く考えるべき立場だと感じました。今日の話を１回目の機会として、続けて考えていきたいと思いました。

（久田委員）
　今日の数時間だけでも複数の分野の専門的な視点からの意見があって、それらを全部満たすような答えは簡単に出せるものではないと思いました。また、この地域に入り込んで事業をする方はリスクを負ってやる方ですから、その方を尊重したいと思います。
　このような複雑な関係や取組の中で、一人一人が「自分の立場で取り組むことはこれだ！」という思いをもったとして、その思いを周りの皆にシェアし、同じ思いを持つ人たちが一緒に力を合わせて取り組もうとするきっかけの場がないのが現状だと思いました。そういったきっかけを用意することが必要だと思いました。

（川尻委員）
　今日の久田委員の話を聞いて、地域のために頑張りたい人の受け皿となる場があれば良いのだろうと思い、（青年部を卒業される久田委員については）同友会なのかな、しかし現在、存在感のある活動をしていないな、と思いました。
　どんな団体にせよ、何に向かって頑張っていくのかが明確でないと、上手くいかないだろうなと思います。象徴的な活動といいましょうか。例えば、昔は「女性部はこんなことをやっている」というイメージが、何となくではあれ、あったのだけど、今はどの団体にもあまりそういうものがないのが、人員不足と同時に

問題になっているのかなと感じた次第です。

（太田委員）
　今日は商業施設やイベントの話が多くなりましたけれど、私の娘は結婚して現在富山市に住んでいますが、子どもと一緒に、総合公園など遊びに行かせたいと言って、町に来る時があります。
　町外の人の視点に立ってみると、既に立山町の中にも特色のある場所が沢山あって、そういった場所も立山町ならではの住みやすさなのだなと感じます。私の娘のような町出身者など、幅広い意味での来町者にとって、町の魅力をあらためて知り、町に再び来てもらえるように、うまく町を PR する入り口となるような施設ができると良いと思いました。

（石原委員）
　今日は、色々な団体の長のような立場の方たちから構成される会議でしたが、これから、立地適正化計画の策定の時（令和６年 11 月）に五百石公民館で行われた「五百石の未来を考える座談会」のような機会を、とにかく沢山やっていくことが大事だと思いました。五百石の再整備について、住民一人一人が考えるきっかけの情報をつかめる場所が、ちゃんとあるべきだと思います。町には情報の発信の仕方を考えていただければありがたいと思います。公民館としても、その場づくりのお手伝いができればと思います。
　一度そういう場所ができて、継続していけば、情報をつかめたその次は、意見や思いを寄せられる場所。そしてそこが、思いのある人たちが一緒に力を合わせて何かをしようという場所になっていき、「まちづくりの自分事化」が進むように思いました。

（青木委員）
　色々な視点で本日お話を聞き、立山町民が知っている町の強みと、外の人たちが見た町の姿を上手くマッチングしたうえで、町の情報発信を上手くすることが、ひいては賑わいの創出になるのだと思いました。観光協会の立場としても、今日の皆様のご意見を事業に活かせればという思いです。

（事務局（山田主任））
　本日の会議では、色々な視点で皆様からお話聞かせていただき、今すぐに「今後具体的にこう活かします」とお話できない部分も多いですが、今後の検討に活かしてまいりたいと思います。
　一つ、明確にやったらよいと思うことは、地元の皆様で、この五百石地区のこ

とを話し、考えるきっかけになるような場を設けていくことです。まちあるきをしながらなど、やり方は工夫しながら、委員の皆様にもぜひお時間の許す限りでお付き合いいただきながら、回数を重ねていきたいと思います。また、それは今後、ずっと役場が音頭を取らないとできないことかといわれると、やはりそうではないと思っていますので、回数を重ねる中で地元の方たちで、「五百石のために、一緒にチームで何某かに取り組もうよ」というに育っていけば良いと思っています。

この点でも進め方を見守っていただいて、また来年度の、このフォローアップ委員会の会議で、ご意見いただければと思います。

（大西委員長）

以上で本日の会議を終わります。

以上